

● 令和3年度 活動報告 ●

- (1) 役員会議 (①5月28日②9月24日(中止)③11月11日④12月3日)
- (2) 第44回定期総会(4月22日)
全リモートでの定期総会開催。宮城県障害福祉課の行政説明は資料配布をいたしました。
- (3) 東北地区知的障害者福祉協会 定期総会・施設長連絡会(宮城県担当)(6月11日)
東北大会では、初めてのリモート開催で約200名が参加されました。
定期総会に先立ち「共生社会とノーマライゼーションの具現化」の講演を行いました。
- (4) 部会活動
コロナ禍ということもあり、今年度の各部会活動も今後の活動課題に向けたアンケート調査、事例集の作成、インターンシップ研修等、工夫して活動してきました。
- (5) 委員会活動
(政策委員会)
会員事業所に対して、報酬改定に係るアンケート調査を行い、その結果を宮城県と仙台市の障害福祉担当課との意見交換会を予定しています。
(権利擁護委員会)
人権擁護に関する職員組織アンケートを実施しています。
(支援スタッフ部会)
11月1日、2日に行われた東北フォーラムに向け活発な委員会活動を行いました
また、日中活動や人材確保、人材育成に関する情報交換を積極的に行いました。



12月3日に実施された役員会の様子です。(対面での開催)

(6) その他の活動

- 障害者支援施設(入所)のコロナ禍の面会・外出・外泊の実施調査(8月・10月)
- 宮城県新型コロナウィルス感染対策ワーキンググループに参加(10月~7回出席)

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

2021年を振り返ってみると、やはり新型コロナウィルスによる不安やストレスが多い年でした。一方で、1年遅れで開催された「東京オリンピック」での日本選手の活躍に感動と勇気をもらいました。さて、年末に放送された漫才のナンバーワンを決める「M1グランプリ」を久々にテレビで観ました。優勝は「錦鯉」の長谷川さんと渡辺さんのコンビ。長谷川さんは50歳で、史上最年長での優勝の瞬間に大粒の涙。北海道出身で20年間売れなかったエピソードを知り、苦労が報われた瞬間に感動しました。長谷川さんの諦めずに夢を追い続けてきた姿にオリンピックと同様に「感動と勇気」をもらいました。年末からオミクロン株による感染が拡大傾向にあり、またしても予断を許さない状況になっています。今年が皆様にとって健やかで、「感動」や「笑い」のある1年になることをお祈りいたします。

宮知福協だより

NO1

発行 宮城県知的障害者福祉協会
発行責任者 会長 二階堂 明彦
宮城県障害者福祉センター 事務所
電話 022-293-4005
発行日 令和4年1月 吉日

● 新年の挨拶 ●

宮城県知的障害者福祉協会 副会長 大森 道宏

新年おめでとうございます。

穏やかな新年をお迎えのことと思います。年の初めにあたりご挨拶をさせていただきます。さて、昨年も新型コロナウィルス感染症の防止に尽力した一年だったと思います。そのなかでも利用者ははじめご家族、事業所一体となり、新しい生活様式に取り組み、力と知恵を発揮された事と思います。

本会も、新型コロナウィルス感染症の感染防止対策等を踏まえweb会議や本会ホームページ活用など少しづつですが、今やらなければならぬ事を出来る限りの方法で実施しております。本来であれば顔を合わせ実施したいところですが、新型コロナウィルス感染症が収束されるまでご協力とご理解をお願いしたいと思います。

新年を迎える、今年度も新たな協会運営の在り方も検討しながら進めたいと考えております。今後とも会員の皆様のご支援、ご協力を賜り運営していきたいと思っております。本年はコロナ感染も収束し、皆様にとって良い年でありますようにお祈り申し上げます。

(社会福祉法人石巻祥心会かなん バウムクーヘンと焼き菓子、椎茸栽培の様子)



● 副会長就任の挨拶 ●

宮城県知的障害者福祉協会 副会長 伊藤 公善

新年おめでとうございます。

今年度より副会長を仰せつかりました社会福祉法人みんなの輪の伊藤公善と申します。

これまで、宮城県知的障害者福祉協会の活動には大変お世話になっており、研修会や意見交換会等に参加して参りましたが、これからは役員の一人として会員事業所の皆様にとって協会の活動が有益なものとなるよう積極的に取り組んで参ります。



まだまだ未熟なためご迷惑をお掛けすることがあると思いますが、会員の皆様のご支援ご協力をいただきながら成長し、協会と会員事業所の更なる発展に寄与できるよう精進して参りますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

